

# 教育経済建設常任委員会行政視察報告書

富 永 悦 子

## ○山形県南陽市

### シェルターなんようホール（南陽市文化会館）について

#### 【所 見】

昭和 42 年 4 月に 2 町 1 村が合併し、南陽市が発足した。名前のおり、太陽の恵みを多いに感じられた。赤湯駅が最寄り駅である。市役所隣に建つ文化ホールの外観は一見シンプルで、外観には予算を掛けていないようである。しかし、エントランスから館内に入ると、木の香りがいっぱいに広がり、視覚だけでなく、嗅覚からも木のぬくもりが感じられた。

文化ホールは、全国初となる大型木造耐火施設であり、国内最先端の耐火木造技術、地震に強く安全性の高い耐震構造を採用し、災害時には市役所と連携した防災拠点としての役割を果たす。2016 年には、世界最大の木造コンサートホールとしてギネス世界記録に公式認定され、建設中から関心を集め視察や見学会が行われ、開館前に 7,000 人、オープンしてからの 3 年間に来館者約 59 万人、経済波及効果の試算は年間約 10 億円と大きなものとなっており、周辺施設への観光客、宿泊客が増加し、ホール以外の施設は市民が交流できる場としても活用されている。さらに、建設に当たっては、専門家委員会を発足し、メンバーは、音楽家・坂本龍一、尾崎豊を育てたプロデューサー・福田信氏、キョードー東京代表取締役社長・山崎芳人氏など、国内の名だたる人材で構成され、「山形で一番使いやすいホール」、「全国ツアーの興行を可能にする」「人とまちが育つ文化の創造」をコンセプトに 16 回も図面を引き直すなど、舞台を利用する立場で計画のアドバイス、また、こけら落としで利用した、山下達郎がラジオ番組で文化ホールをアピールするなど、公演誘致に繋がっている。

もう 1 点参考にしたいのは、南陽市文化会館について南陽市初のネーミングライツ(施設命名権)スポンサーを募集し、株式会社シェルターと命名権料(年額)400 万円で契約し、公共施設の運営に伴うサービスと維持管理のための手法としている点である。

木造建築のメリットとして、音響、低燃費、湿度、気温の影響が少なく快適さが挙げられているが、材料の調達等を考慮すると、足利市では木造で市民会館を建築するのは難しい。しかし、今回の視察で、足利市においても市民会館の建てかえは喫緊の課題であり、建設計画を進める参考にしたいと考える。

## ○山形県米沢市

### P F I 制度による市営住宅建替等事業について

#### 【所 見】

米沢市塩井町団地の現地を視察したが、雪国ということで仕様も足利とは違い、1階の物置が配置されているスペースや階段なども、全て外部から囲われており、寒さ対策、雪対策がされていた。1階が高齢者住宅でバリアフリー化され、昼間は生活支援員が見守りをし、感知式の緊急通報装置が整備され、なおかつ、エレベーターも完備されていた。足利市においても、今後、市営住宅の整備を検討しなければならないが、米沢市のような雪対策はいらぬが、エレベーターの設置、見守り付き高齢者住宅の検討が必要だと考える。

今回の視察の課題である、P F I 制度の導入については、国の基本方針として民間活力の積極的な活用の推進をしており、さらに、県営住宅建替事業をP F I 事業として先行していることから、市営住宅建替事業においてP F I 導入可能性調査を行い、その結果を踏まえて導入したとされている。

民間事業選定条件を設けてP F I 事業者を募集し、選定方法は価格及び価格以外の要素（事業実施能力並びに設計、建設、工事監理及び維持管理能力等）を含めた総合評価一般競争入札により行った。しかし、最終入札業者が1グループしかなく、地方の市では企業も少なく、競争入札のメリットが生かされていないのが課題である。公営住宅は住宅仕様が高い水準ではないため、コスト縮減に限界があり、維持管理、運営部分が少なく、事業者のノウハウを活かす所がなく、メリットが少ないのが現状である。P F I 制度の導入については米沢市のような事例を含め、先進市の状況を参考に、導入を検討すべきと考える。足利市の市民会館等公共施設検討特別委員会での検討も参考にしていきたい。